

2011年11月25日

八大学工学系連合会博士学生交流フォーラム実施要綱

八大学工学系連合会

本要綱は、八大学工学系連合会が主管し実施する「八大学工学系連合会博士学生交流フォーラム」(以下、博士学生交流フォーラム)の実施に関する諸事項をまとめたものである。

1. 博士学生交流フォーラムについて

1.1 背景

本博士学生交流フォーラムは、博士学生の幅広い交流の機会として、平成 16 (2004)年度より、8 大学(北海道, 東北, 東京, 東京工業, 名古屋, 京都, 大阪, 九州)の工学系 9 研究科(大阪大学のみ 2 研究科)の共同事業として実施してきたものであり、平成 24 (2012)年度より、八大学工学系連合会(以下適宜、連合会と呼ぶ)の主管で、八大学工学関連研究科長等会議の会員研究科に所属する学生を中心に実施するものである。

1.2 目的

大学間・産学の相互交流により、高い志を有し科学技術創造立国をリードする若手の自己啓発を支援する機会を提供する

- ・学業に励む博士後期課程学生間の、大学と専門分野を超えた人的交流関係の構築
- ・各大学における先端的取組みや学術研究等に関わる情報の交換、先輩・アドバイザーからの助言・情報提供と交流によって、視野の拡大と多面的なものの見方を醸成し、学術研究などへの刺激、国際化への関心の相互触発、多様な人脈形成などに資する、

1.3 形式

八大学からの幹事校持ち回りで開催する。

2. 実施体制

2.1 委員会等

以下の委員会、組織の協力により実施する。

- ◆八大学工学系連合会 ◆同運営委員会 ◆博士学生交流フォーラム実行委員会
- ◆幹事校事務局 ◆連合会事務局

2.2 運営委員会

博士学生交流フォーラムの実施に関する連合会としての管理と実施状況の確認、

2.3 連合会事務局

博士学生交流フォーラムに関わる、連合会としての事務処理、運営支援、及びフォーラム当日の現地事務支援、

2.4 博士学生交流フォーラム実行委員会

具体的な実施内容と方法の決定を、幹事校を中心に、支援教員委員、学生委員、幹事校事務局、連合会事務局で実行委員会を構成する。支援教員と大学は学生委員の実行支援を行い、実際の内容は学生が自主的に進める。

(1) 学生委員

- －プログラム企画の具体化
- －特別講演者の選定(1～2名)
- －各グループの編成(4数グループ)、グループ討論テーマの選定と事前準備
節目での他大学学生委員・参加者との連絡(メールベース)
(グループ討論については、他大学の学生委員も交えて、チームの構成員が、選定されたテーマについて予め議論を進め、当日の論点が整理されている段階まで。)
- －各グループの世話役(モデレータ)と書記の選定
- －企業アドバイザー(連合会事務局を通して人選依頼)、他大学教員・学生委員との連絡
- －会場の下見(事務局と協力)
- －当日の実行運営、会場準備
- －事後報告書のまとめ： 実行委員会を経て運営委員会に提出する(電子ファイル化)

(2) 支援教員委員

- －上記に関する学生委員の支援
会場選定、講演候補者の示唆、
- －フォーラムへの参加とグループ討論へのアドバイザーとしての参画

(3) 事務局

- －幹事校としての対応が必要な諸事項は、幹事校事務局が対応
- －諸事務手続き、イベントとして経費のかかる部分の処理は、連合事務局が対応

3. 実施スケジュール

- ・ 日時： 毎年6月から12月の、連続2日
- ・ 形式： 合宿形式

4. 経費と事務処理

4.1 八大学連合会負担経費：

- (1) 博士交流フォーラム会場の借用、会場設営に関する費用、
- (2) 外部に依頼する講演者、アドバイザーに係る費用(出張費、謝金)
- (3) 下記4.2. 4.3 項の経費を除く、以上の実施とイベント実施に関わる連絡等に必要の諸経費
上記の手続き、経費処理は、事項により幹事校事務局の協力の下に、連合会事務局にて行う。(2) 項の費用については、連合会の謝金等規程に従って処理する。

4.2 各大学負担経費：

自大学の参加者、支援教員・委員の参加に係る費用(出張費等)

4.3 幹事校負担経費：

各大学負担経費の自校分、及び実行委員会に係る学内費用

参考付録1. 博士学生交流フォーラムの実施要領(概要イメージ)

参考付録2. 平成16(2004)年度から同23(2012)年度までの歴史

参考1. 博士学生交流フォーラムの実施要領（概要イメージ）

注意： 以下は、委員に内容のイメージを持ってもらうための素材である。

具体的な要領は、各年の実行委員会で検討する。

- 1) 日時： 平成 年 X 月 Y 日() - Y+1 日()
- 2) 会場： Z 研修センターなど
- 3) テーマ： フォーラム統一テーマ「 _____ 」※

※ 班別討論テーマの上位に位置するテーマ

4) スケジュール

X 月 Y 日()

13:00～13:10 開会挨拶（研究科長、又は実行委員長）

13:10～14:30 特別講演1（学界※）

特別講演2（産業界※）

※ 例であり、具体的には委員会で決定。

14:45～15:00 グループ討論実施方法についての説明

及び UCEE ネット紹介と説明

（休憩）

15:15～17:40 グループ討論 I

（休憩）

17:50～19:30 懇親会、及び並行してポスター発表による研究発表・討論

（同じ場所で開催）

20:30～22:00 自由討論交流（班別）

X 月 Y+1 日()

8:45 集合

8:45～ 9:00 集合写真

9:00～10:30 グループ討論 II

（休憩）

10:40～11:20 グループ討論発表

11:20～12:00 全体討論・総括

12:00～12:10 閉会挨拶（実行委員長、または研究科長）

（解散）

以上

博士学生交流フォーラム 過去8年間の開催概要

年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
幹事校	東京工業大学	京都大学	北海道大学	大阪大学	九州大学	東北大学	名古屋大学	東京大学
期間	17. 3. 21-22	H17. 12. 12-13	18. 6. 30-7. 1	19. 9. 3-9. 4	20. 9. 11-9. 12	21. 9. 10-11	22. 9. 13-9. 14	23. 11. 25-26
特別講演	講演：産業界から見たフロントランナーへの期待(1) (税理士法人トーマツ 畠山直子氏) 講演：産業界から見たフロントランナーへの期待(2) (日本たばこ産業株式会社 籠橋雄二氏)	講演：大学の知を基盤としたイノベーション創出 (京都大学副学長 松重知美氏) 講演：伝統産業からの21世紀へ (福田金属箔粉工業株式会社 梶田治 氏)	「実りある産学連携のために必要なもの」(北海道大学教授 永田晴紀氏)	特別講演 「理系研究者のキャリアチェンジ」(クリングルファーマ(株) 安達喜一氏) パネル討論「多彩なドクター・キャリアパス」(久善善徳*1・安達宏昭*2・伊藤剛仁*3・藤村昌寿*3各氏) *1：大阪ガス、*2：創品、*3：大阪大学	「原子力メーカーの今とそこで活躍する人材」(三菱重工 城戸秀俊氏)	「東北大学高度技術経営塾の考え方と歩み-塾教育の現場から-」 (東北大学高度イノベーション博士人材育成センター 特任教授 渡辺幸男氏)	①「研究を推し進める原動力は何か」(名古屋大学特別教授 益川敏英氏) ②「人づくり、ものづくり、安心づくり」(衆議院議員 空本誠喜氏) ③「博士課程から民間企業へ行こう」(デンソー 布施卓哉氏)	「社会と工学の在り方」 (前科学技術振興機構理事長 北澤宏一氏)
テーマ	学生会議討論イントロダクション：自己にとってかけがえない大切(重要)な物事は何か (三菱電機株式会社 島田彌氏)	学生会議イントロダクション (京都大学高等教育研究開発推進センター：田中毎実, 大塚雄作, 松下佳代、各教授)	魅力ある博士育成のために、学生、大学、企業は何をすべきか (統一テーマ)	多彩なドクター・キャリアパス 話題提供：京大・吉田教授	自らが理想とする博士像(どのような切り口で討論をするかについては各グループにまかせる)	博士学生が担う理想のリーダー像とは (統一テーマ)	日本の博士の歩き方～現代社会が工学博士に求めるものと博士学生の未来像～	震災に向き合う
参加者	学生25名, 教員, 産業界	学生25名, 教員, 産業界	学生27, 教員, 産業界8	学生28, 教員, 産業界8	学生27, 教員17, 産業界9	学生36, 教員21, 産業界8	学生34, 教員22, 産業界9	学生44, 教員24, 産業界9
グループ討論	4グループ	4グループ	4グループ	4グループ	4グループ	4グループ	4グループ (サブテーマ：社会からの要求と博士課程になすべきこと、卒業後の未来像)	4グループ
グループ別討論課題	・15年後(2020年)へ向けた科学技術のあるべき姿 ・科学技術各分野の異分野交流について ・持続発展型社会と工学のかかわり ・博士が目指す起業化について —世界で活躍する科学技術者像	・社会的意思決定と科学技術 ・博士指導の理想的な姿 ・21世紀型博士への期待 ・大学と企業における研究テーマ設定 —研究成果の価値評価	4グループ上記統一テーマ	「各キャリアパスに求められている博士像」 ・アカデミックポジション ・公的研究機関・海外の職務 ・民間企業1 ・民間企業2 —ベンチャー企業	(※)	(※)	(※)	事前メール交換により、各グループごとにテーマ討論についての共通意識を持ってもらった。(教員、企業アドバイザーを含む)
会場	新日鐵代々木研修センター	京都大学福井謙一記念研究センター	北海道地区国立大学大滝セミナーハウス	大阪大学コンベンションセンター・銀杏会館	九州大学伊都キャンパス	東北大学工学部・工学研究科(青葉山キャンパス) 青葉記念会館 *	名古屋大学東山キャンパスシンポジウムホール・豊田講堂会議室*	東京大学 検見川セミナーハウス
宿泊とナイトセッション等	合宿(新日鐵代々木研修センター) ナイトセッション：参加学生の相互の研究紹介	合宿(ホリディン京都) ナイトセッション：研究のフロント(ポスター、自由討論)	合宿(北海道地区国立大学大滝セミナーハウス) ナイトセッション：研究のフロント(ポスター、自由討論)	合宿(阪急千里ホテル)：ナイトセッション・自由討論	合宿(エバーグリーンマリンホテル <大学バスで移動>)：ナイトセッション・自由討論	各自分宿*	各自分宿*	合宿(東京大学 検見川セミナーハウス)：ナイトセッション・自由討論
注	GPプログラム(コアリションセンター機能体) H. 16-19				*ポスターセッション+懇親会までメイン会場(自由討論無し)			
	※ メールベースの事前意見交換無し							